

国内未承認ワクチンを接種される方へ

腸チフスワクチン (Typhim Vi[®] ; Sanofi Pasteur 社製)

腸チフスはチフス菌の感染によって起こる急性の熱性の病気です。感染経路はチフス菌に汚染された飲食物による経口感染がほとんどです。潜伏期間は1-4週間程度です。発熱や倦怠感が徐々に進み高熱を呈します。他の症状としては、頭痛、全身痛、食欲低下、腹痛、便秘や下痢、皮疹などがあります。適切な治療により症状は改善することが多いですが、腸管出血や腸管穿孔など重大な合併症を起こし、生命の危険性を伴うことがあります。予防法としてワクチンが世界的に用いられていますが、わが国では未承認であり、現時点では輸入ワクチンとしての取り扱いになります。当院では、Vi 多糖体抗原不活化ワクチンを輸入しています。接種方法は0.5mlを筋肉内に1回のみ注射します。ワクチン接種者の50-80%に予防効果が認められ、追加接種は2-3年後になります。わが国で行われた191例の腸チフスワクチンの臨床研究において、局所の痛みや発赤、全身の筋肉痛などが副反応として認められましたが、いずれも軽い症状でした。

髄膜炎菌ワクチン (Menveo[®] ; GlaxoSmithKline 社製)

髄膜炎菌は飛沫感染し髄膜炎や敗血症などを起こします。潜伏期間は1-10日で多くは4日以内です。髄膜炎の場合、発熱、頭痛、嘔吐、意識障害などの症状が出現します。治療は抗菌薬を使用しますが致死率は約10%です。世界的にはアフリカのサハラ砂漠以南の髄膜炎ベルト地帯が有名ですが、先進国でも散発的な発生があります。流行地域への渡航者以外に、サウジアラビアのメッカの巡礼に参加する人々も接種を必要とします。その他、米国留学の際、寮生活を予定している者にも接種が推奨されています。予防方法としてワクチン接種が世界的に用いられておりわが国でも4価(A,C,W135,Y)結合型ワクチンであるメナクトラ[®]筋注 (Menactra[®] intramuscular injection) が国内で承認され、2015年5月18日より発売開始になりました。ただ、価格が高いという難点があるため、当院では同等の効果と安全性を有し、より安価な4価(A,C,W135,Y)結合型ワクチン Menveo[®]を海外より輸入し使用しています。接種方法は0.5mlの筋肉注射になります。

輸入ワクチン副作用被害救済補償制度

日本国内で承認されているワクチンは予防接種法、施行令によって健康被害に対する救済制度が確立していますが、日本国内未承認ワクチンについてはその救済制度は対象外となります。そのため、国内未承認ワクチンの副作用に関する救済補償制度は、当院がワクチンの輸入を依頼している代行業者による独自の補償制度に従うことになります。